

第3回 幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発委員会 会議要旨

- 1 日時 平成30年7月18日(水) 14:00~16:00
- 2 会場 東京都庁第一本庁舎16階特別会議室S4
- 3 出席者 無藤委員(委員長)、坂野委員、山森委員、瀬下委員、小堀委員
宇田委員(副委員長)、栗原委員、児玉委員

4 議事概要

(1) 報告

- ・ 第2回 幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発委員会における確認事項について
- ・ 第2回 教育課程の研究・開発モデル地区委員会における協議内容について

(2) 議事

▽ 学習環境について

- 就学前施設の保育室と小学校の教室を橋渡しする部屋を設置する。
- 机は、折りたたんで収納したり、簡単に移動したりすることで、様々な学習形態に対応できることが望ましい。
- 活動内容に応じて、移動式の電子黒板やプロジェクター、タブレット等を活用できる環境があるとよい。
- サイエンスコーナーなど、現状の保育室及び教室にはない環境を構成することで、子供の興味・関心を高められるようにしたい。
- 活動内容に応じて学習環境を使い分ける必要がある。また、新1年生が教室に慣れない場合にもこの部屋が活用できるようにすべきである。

就学前施設と小学校の橋渡しの役割を果たすために、通常の就学前施設や小学校にはない魅力的な環境を整備するとよい。また、活動に応じて、様々な学習形態に対応できるスペースの確保とともに、ICT機器を活用できる環境とすることが望ましい。

▽ 教材・教具について

- 先行研究されている教材・教具を参考にして開発することも可能ではないか。
- 具体物の操作によって理解する子、一般的な小学校の教材の活用によって理解する子など、様々な実態の子供が混在する。個々の実態に対応できるよう、就学前施設と小学校で一般的に使用している教材・教具を、どちらも配置することが現実的である。
- 教材・教具は、小学校の学習につながる活動を設定する上で、担当教員が子供の実態に応じて用意するとよい。

本教育課程に応じた必然性の有無や幼児・児童の活動を豊かにするという観点から、既存の教材・教具について検討するとともに、必要に応じて教材・教具を開発するとよい。教材・教具を新たに開発する際には、誰が、何を、どのように使うのかを想定しながら、就学前教育と小学校教育の橋渡しの役割が果たせるかどうかを考える必要がある。

▽ 中間報告のプロットについて

- 指導時数は、本教育課程における活動内容に応じて、柔軟な設定が必要である。
- 知識及び技能に関わる内容は、幼児の素地が十分に育った後にその要素を入れていく。
- 教材・教具の開発は、研究を進めながら、教員の必要感に応じて行うとよい。
- 学習形態については、協働的な学びについても示唆する内容を盛り込んだ方がよい。
- 調査の実施に当たっては、本研究・開発で目指す方向を明確にし、目的に応じた項目の精査が必要である。また、月齢差などの調査により、新しい課題が見えることもあるのではないかと。